

寛永清家系図傳

又 4
4605

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

又伊
門又 4
號 4605
卷 2779



寛永諸家系圖傳



依田

大和源氏の末流なり代々信州佐久郡依田乃
城に住まむ故依田と稱す



俊舎

次郎左衛門尉

北條家の軍士信州諏訪桑原表へ出張の時俊舎
上杉管領に属して北條が兵と戦て討死す時五

十一歳

信信

石見守

時行

伊勢守

信貞

備前守

甲州勢ヲ屬シテ敵地本曾々領内へ尤くらくき、鞍内を討死す時子四十四歳

信蕃

松平常陸介 從五位下

信州芦田の城に住す

東照大権現ヲ屬シタルヨリテ教度の軍志何るより、松平の稱号とて、海分り、十萬石此地と拜領す、其後岩尾の城をて兄弟三人討死す

康國

松平源十郎 修理大夫 從五位下

大権現より御諱の康の字と下さる小田原陣のとき討死也

康貞

松平右衛門大夫 從五位下

大権現より三万石の地を拜領す

信吉

依田下野守

信幸

伊賀守

大権現の御供として信州におもむき北條の領内岩尾の城をせめしむふとき兄信蕃弟信春と一斬りて討死

信守

肥前守

永禄五年上野箕輪の城におめて北條の兵と戦ふ
一太子とてやありとあり武者とてあり疵をか
うふる其軍功より信玄より黒地のおりかけを
ゆらさるそののち生田安房守昌幸

大権現へ涉敵とあり働き出家の時昌幸と黒
地のねりかけをさし中につき信守といふく
黒地のおりかけをさす働きのみむね

大権現大久保七郎右衛門のともつと作下さる
大権現沙島と甲州新府より出さるるとき信守先手
さうけたまはり三澤小屋小軍忠とぬきんて

天正年中

大権現真田や教度ゆありいの時毎度軍功をえ
けすす其外北條家佐久郡乃内々すの城同郡
少田井の城より横井大膳正二役丹波守をこたえき
しを信守これをせめて横井二役ならいし新兵あり
まゝくうらうらつる城をおとす

大権現其軍功を感したまひて先祖の本領一萬
石此地を下さる其上人質の領多として後任國
頼系大伴の二村をてつる石原領す

信州俣野におめて宿城を放火して軍士あり

うろろり信守疵とくろりあるとき

大権現より感状と下さる

今度至伴所地相働者疵より由寔無比類義候
殊宿城迄悉令放火敷每被討捕之由むれば
馳走とく可為布望に恐る謹言

七月十九日

宗原沙在列

依田肥前守殿

大権現菅田修理大夫康國より命して騎馬四
七人歩兵二万人信守よりつけらる

慶長五年

大権現景勝退治のため奥州よりおもむきたまふ
時小山より供奉すそのうち関ヶ原沙陣のとき
台徳院殿よりとくむいたくまろり信州真田の
殿下にねめて保とくけぢりくええく足輕い
くさありそのうち大坂まで勅命とくろり信
州よりおめてき、真田の城とくけり存る由の
ちり病死

信政

源右郎 肥前守 生國 信州 佐多郡

信州佐久郡相岐あひまきの城は相岐入道とさしあり相岐の城と
り北條家より相岐入道とさしあり相岐の城と
せむるのとき

大権現の仰より信政と父信守と芦田修理
大夫康國と先うけこしと相たけむ信政功名をい
し康國より此感状あり

天正十八年秀吉少田原へ進軍のとき前田瑞前
守利家北陸道より信濃路とゆき少田原より
陣せんとするの時北條の家臣大迫奇駿河守
盛政上野松井田の城をたてしむる松井田

佐久郡ハ程ちうきゆへ

大権現の仰より芦田修理大夫より信政父
子利家と道の案内者として松井田の城をた
てこれとせめれとす其後芦田修理大夫上野の惣
社より討死の時信政急ぎ入て其場をて敵
兵小林左馬光と討しむこれよりして利家より
感状と傳たり

大坂の陣のとき、本多佐渡守正信くみまて
台徳院殿の供奉す

寛永八年

政勝

將軍宗より騎馬の力五人歩同心三千人仰付ら

平左衛門 生國同前

慶長十年

台徳院殿へめし出さる

信重

内務卿 生國上野

元和二年より阿部備中守任りて伊香院南と

つとむ

寛永十六年釣糸よりあうりのかりらとな
る

信弘

友之助 生國同前

家紋丸内三蝶

依田

本ハ字物氏なりといふと先祖字物下野守
親弘ヲ孫字物太郎有氏以後信濃國依田の
城ヲ住す有氏ノ子ハ鞠子の冠者二郎有光と
号す其子孫依田の某足利高氏ヲ奉りて西
國ヲ討死

● 全良 ヨシキが

板鼻右馬允

上野國板鼻子_ニ在城侍り管領へ奉りて一ノ十餘子

て病死

全賀

同右部

幼少の時父ふんるれ扇園上跡ふあれ々うんて碓井
峠より四十八歳のとき討死

全真

平原下佐

信濃國平原に在城し村上義清に下りつゝ義清

浪人以後奉公せやめて九十七歳にて病死

信盛

同又在郷り

武田信玄よりつゝふ武田あるにあり諱の信の字を
まゝく九十一歳にて死法名全宗

昌忠

同右近

遠州二俣よりあつて三十三歳の時より死法名全秀

昌忠、兄源元川中島を討死時、廿五歳、弟將
監信州加賀川を討死時、三十九歳

盛繁

依田右馬助

九歳のとき、父昌忠よりなれ、祖又信盛より取て
られて駿州田中の所番をつとむ

少田より、杉平丹波小田井の城を棄てり、これ
ある時、盛繁

大権現の所味、官ふまわり、平原より、働の城をせ

めおとす

天正十年、相岐入道に敵となり、少田京へ引退くとき、
敵をおい、け首を一つ討てる

大権現甲州新府に出馬の時、前へ召出され、こゝ
けなき所意ありつゝる

同十九年、奥州市陣の供あり、こゝに同心三千人を
あつゝる

慶長五年

台徳院殿、信州上田へゆえたるき、のとき、同心三十八
とめ、つれ上田の所番をつとむ、そのうち高崎の

侍者と仰付らる

大坂兩度の侍陣が本多佐渡守正信にまゝ
向し首一川うちとら七十八歳にて病死

盛吉

又右海河

寛永九年

將軍家へしとせられ上洛國を切り拜領し
江戸内城に天守番とつとむ

宗飯丸内三蝶

依田



● 國吉

次郎左衛門 生國信州佐久郡
芦田常陸子つ子

重吉

新左衛門尉

生國同前

吉清

半左衛門

慶長五年閏三月沙汰のとき

大権現へのし出さる

吉久

半左衛門 生國上野高山郡藤岡村

江戸内城の天守番をつとむ

家紋 釘貫

依田

●元吉

但馬 生國信州 佐久郡

芦田常陸介のつとふ

天正十年九月十日六十一歳にて病死法名靈尊

國吉

勘三郎

生國同前

慶長五年關ヶ原陣の時
大権現へあし出され其後
台徳院殿
將軍富くつててまゐる

吉正

勘三郎 生國上御保所

江戸涉城の天守御番とつとむ

富政上羽蝶

依田

● 某

甚立丸御の 生國信州

武田信玄 勝頼父子の侍り

守秀

金丸御の 生國同前

芦田右衛門大夫康貞一門なる故康貞の属す

大権現甲州新有、古出馬乃時信州山麓を
志節あり

慶長五年閏々至河陣子供奉す

守次

甚丑左侍の 生國日前

大権現

台徳院殿より侍らる

大坂兩度の侍陣子供奉す

守久

平助 生國上野

將軍家へ女一つあり江戶河城の天守の
番とつとむ

富板 蝶衣形

依田

● 信正

備前 生國 信濃

武田信虎子属として歩卒五人あつる

信吉

左近 生國 同前

信玄勝頼父子に居て歩卒の既とある

信次

四郎右衛門尉 生國回斎

若田右衛門の一族たるにふりてこれより子
東照大権現甲州新府へ出立るの時信次忠節
を侍らむ

關ヶ原の陣の時一出されてつと奉り出陣
を仰つらむ

五十二歳にて歿す

信忠

権兵衛 生國上郎

台徳院殿を侍らむ

大坂西度の陣に供奉

寛永十二年仰より駿河大納言忠長卿に
つらふ

同六年召出されて

將軍家侍らむ

宗紋丸内 蝶花形

行俊

大郎 伯信と伴

依田三郎大守 実信と二男

行行

左衛門尉 伯信

希遠

左衛門尉 伯信

希

唯心 伯信と伴 伯信と伴

行登

左衛門大守

伯信

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names like 伯信 and 大郎.

朝行
中務連

盛之長

隆光

石山 佑
二六より若田と移す

晴朝

石山 村
若田

為延

以郎

迎源

警左衛門

迎直

孝

良國

孝

長鐵房

孝

清以郎

其 治少師 治名 良有

貞春 乃物 乃物

行朝 乃物 乃物

朝貞 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物 乃物 乃物

其 乃物 乃物

其 乃物 乃物

某 信子 通号 吉永 高老 二男
女子

某 父と石和子一信何と云り他子と云く

信子 下野守 六月十八日 死 信若良心

某 凡通

信光 却却

夫お 大雲和尙 格別 山石田の 新舎る 信藏

某 子了 中入るて 他女、血る

信善 信十郎 若狭介 庄行の 信

某 頼新 善九郎

信幸 信八郎 伊豆守

女子

女子

康回 竹通丸 信十郎 修理吉良

康貞 信子代丸 新之郎 右衛門大吏

女子

才二

信幸

辰八郎 信幸

信守

神保 守 辰二郎 肥前守

女子

信政 肥前守 又信守、辰子

信政

信政 辰太郎 肥前守 信幸 辰二郎

政勝

Grid with faint handwritten notes and bleed-through from the reverse side.

信重 内丸部
信松 友力

信重 海方部

女子

女子

女子

信方 八部五部 八部五部

基 原七部

基 信子部 早也

信重 内丸部 内丸部 原七部

信安 主提 内丸部

信安 三治部 新八部

女子

女子

基 原七部

基 主親 子也

女子 恒信 能十 肥 子 子

女子

女子

素 子 也

信 唐 大 子 子 子 子

女子

女子

女子

妻 子 子 子

信 獨 子 子 子 子

女子

女子

妻 子 子

妻 子 子 子

